



大人だって「探求学習」が生きる喜び！－昆虫採集編－

■ 図書室で昆虫図鑑を開く昼休み

一ノ谷小学校の図書室にあった、小学館の『昆虫の図鑑』が大好きでした。アザミで吸蜜しているモンシロチョウが表紙の図鑑、みなさんも覚えていませんか。身近な昆虫はもちろん、まだ見たことがない昆虫が並んでいて、うっとりとしていました。特に出会ってみたいと思ったのはルリボシカミキリ、次がクジャクチョウ、3番目はクモマツマキチョウでした。小学生の頃はずっと「昆虫少年」で、小魚をすくう小さな網を握って、近所の野原を走り回っていました。でも、中学校・高等学校・大学・就職と目まぐるしく時間が過ぎ去った期間には昆虫に親しむことはありませんでした。憧れの昆虫に出会うことができたのは「昆虫中年」になってからでした。



■ ルリボシカミキリ (*Rosalia batesi*)

ゴマダラカミキリは柑橘類の木で、クワカミキリとキボシカミキリはイチジクの木で簡単に見つけることができました。でも、どの昆虫図鑑にも載っていて、日本固有の美麗種である瑠璃色のカミキリムシは、どこに生息しているのかわかりませんでした。

15年前、インターネットが広まってきた初期、「四国のカミキリムシ」というサイトがありました。勇気を出してその掲示板でルリボシカミキリの情報を求めると、徳島県の方が「いま東祖谷桜尾に樹を伐採している場所があります、先週そこでルリボシを目撃しました」と教えてくれました。さっそくその週末、娘を連れて片道3時間山道をドライブし、その場所を訪れました。しかし、なかなかルリボシには出会えず、山の斜面を降ったり登ったりしていました。すると上の道路で待っていた4才の娘が「とおちゃん、おったあ！」と叫びました。急いで駆けつけると、「森の碧い宝石」が倒れた樹の上で触角を動かしていました。2011年8月7日のことでした。

その後も、毎年夏になると、徳島、高知、愛媛の山間部をドライブし、伐採木を積んでいる場所、いわゆる「土場」を探し続けました。運がいいときには、「土場」で無数のルリボシカミキリが運動会をしていました。徳島県の東祖谷村と高知県の大豊町にはいい「土場」を見つけ、何年も通いました。愛媛県富郷町の炭焼き小屋跡でも、積み上げられた木の上でたくさんのルリボシを見つけました。



ここ15年間の「探求学習」でわかったことは、ルリボシカミキリは「深い山間部で広葉樹が伐採され、数多く積み上げられたところに集まる」ということです。でも、伐採木の賞味期限は3年間、それ以上に古くなってはやって来ません。さらに「割った樹ではダメで、丸太のままの樹でなければならない」ことも重要です。また、わたしの記録からは、発生の時期は「7月上旬から8月上旬まで」ということもわかってきました。本州地方では簡単に見つかりますが、中国・四国・九州地方では珍しい昆虫です。今年の夏も剣山をぐるりと一周回ってきましたが、収穫はありませんでした。4年連続でルリボシカミキリに出会えていません。「探求学習」の残念な結論として、山が乾燥しきった「香川県にはルリボシカミキリは生息していない」ということもわかりました。

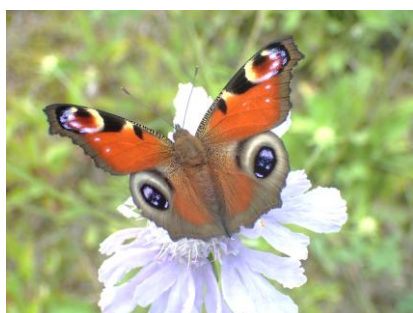
■ クジャクチョウ (*Inachis io* Linnaeus ssp. *geisha* Stichel)

子どもの頃、白いチョウより黄色いチョウ、それよりうれしいのが赤いチョウでした。赤いヒメアカタテハ、アカタテハ、ヒオドシチョウが網に入ったときには興奮しました。

図鑑で「うわ〜っ」と魅了されたのはクジャクチョウでした。オレンジ色ではなくて本物の赤色。その翅には黄色・黒・水色の目玉模様。とてもオシャレなタテハチョウです。書籍には「東北地方や北海道では平地でも見られるが、本州中部では標高の高い山地でしか見られない」と書かれています。半分あきらめていたのですが、数年前に一人娘が長野県の方と結婚しました。それが（少し不謹慎な）チャンスの芽生えでした。

嫁いだのは長野県諏訪郡原村、標高が 1,000m を超えていて高原です。諏訪に住んでいる昆虫写真家へ手紙を書き、クジャクチョウに出会えるフィールドを教えてもらおうとしました。しかし彼からは「中野さんすみません、大まかにクジャクチョウに出会えるところは教えられるが、ピンポイントでココということは伝えられません」という返事でした。それはその通りで、例えばこちらでも、普通種のルリタテハであっても「出会える場所はここです」と断言することは誰にだって不可能です。

その後は、長野県で滞在する諏訪温泉から、時間をかけずに行くことができる山々についてネットで調べました。キーワードは、クジャクチョウが集まる紫色のマツムシソウ。そして、見つけたのは原村の隣の富士見町にある入笠山。ここには「富士見パノラマリゾート」があり、ゴンドラで登った山頂にマツムシソウの群落があることがわかりました。2 年前の夏、娘と妻に頼み込み 4 時間の自由時間をもらい、入笠山へ行きました。そして、仮説通り数々のクジャクチョウに出会うことができました。「探求学習」のスキルとしては、先人への連絡、インターネット、書籍、「富士見パノラマリゾート」への電話など少し安直でしたが、その学習成果は感動レベルで一生忘れられません。



■ クモツマキチョウ (*Anthocharis cardamines*) / ミヤマシロチョウ (*Aporia hippia japonica* Matsumura)

クモツマキチョウ、英名 Orange Tip は、登山を伴う場所に生息している可憐な高山チョウ。残念ですが、体力が衰えているわたしには不可能かもしれません。／この 7 月、原村を歩いているとマンホールがチョウの模様になっていることを発見。ネットで調べてみると、標高 1,400~2,000m の高山帯にいる希少なミヤマシロチョウは「標高の高い原村では、数年前までは平地でも見られていた」とのことでした。だから、原村の自然を象徴するこのチョウが、マンホールのデザインになったということでした。さらに、先週訪れた安曇野市の「田淵行男記念館」の学芸員からは、ミヤマシロチョウは「湯の丸高原（長野県東御市）」で出会うことができると教えてもらいました。来年の「探求学習」のターゲットが定まりました。いまからガンガン「探求学習」をしていきます。



(クモツマキチョウとミヤマシロチョウの画像はネットから、その他の画像は筆者が撮影)